

書と俳句

池田憲亮と一原有徳

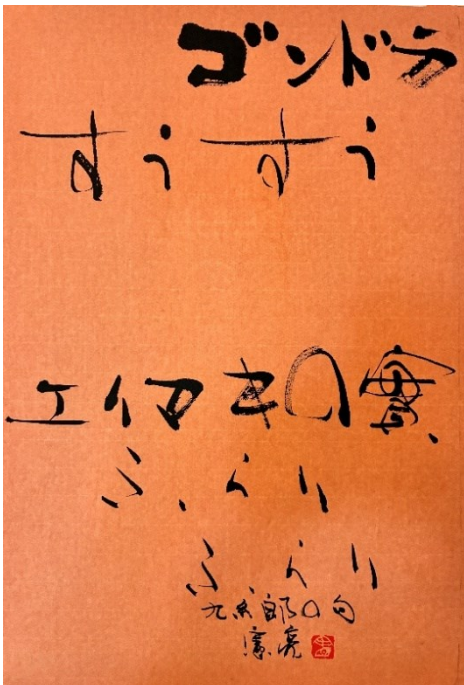
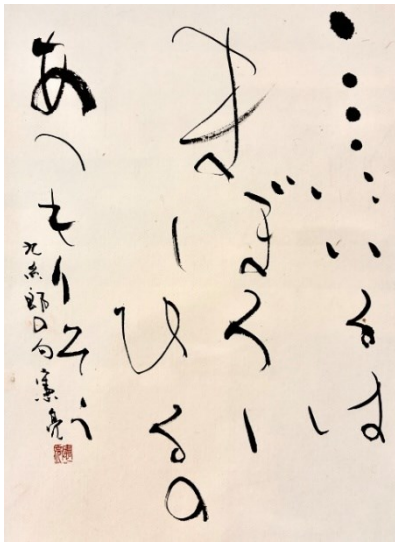
小樽生まれの池田憲亮は、二〇一六年、二〇二二年の二度にわたり歴史ある「毎日書道展毎日賞」を受賞し、続いて二〇二四年日本を代表する書家・中野北溟を讃えて創設された「北の書みらい賞」奨励賞を受け、今最も期待される新進気鋭の書家と目されています。

池田の作品には、独自の表現力、空間感覚があり、作家の世界観が作品全体に滲み出ています。線は書の命といわれ、躍動感あるダイナミックな線は、人間性と鍛錬の深さによるもので、近年はアートギャラリーでの展示やパフォーマンスなど、ますます精力的な活動を行っています。

池田は、これまで伊藤整の詩や辻井ト童の俳句をモチーフに言葉の構造と空間のリズムを探索する作品を発表してきました。本展は、書家・池田憲亮が、小樽ゆかりの現代美術家 一原有徳（一九一〇―二〇一〇）の俳句を題材とした新作書作品を展覧するものです。

一原は、現代美術家として脚光を浴びるはるか以前、少年の頃から句作にふけり、生涯にわたる創作活動は美術よりもむしろ俳句にかけられた時間の方が圧倒的に長く、俳号・一原九糸（のち九糸郎）として、独自の前衛俳句を多数残しました。さらに一原には登山家としての側面もあり、山を舞台とした山岳幻想小説『乙部岳』（太宰治賞候補）や俳句にも、山の仲間に対する俳句、山で見た美しい花や風景などが表現されています。現代美術家としての一原が、自然美よりも人工美を称賛したのと同様、彼の俳句もまた実験精神にあふれています。その詩的世界は、言葉の解体と再構築を通して「見えないもの」を探る実験であり、書の表現とも親和性の高い領域だといえます。

本展では、池田憲亮が自ら一原の俳句を読み解いて、膨大な作品の中から選定し、文字の造形と余白によって現代的な書の可能性を提示します。池田の書の文字を形として見て、滲み、墨の飛沫、黒と白のバランスや曲線の美を現代絵画のように鑑賞することも可能ではないでしょうか。一原有徳記念ホールという、本市芸術家の精神を継承する場は、書と美術の新たな交差点となります。



【関連事業】

九糸郎の句を色紙に書いてみよう
書道体験&アーティストトーク

講師／池田憲亮（本展書家）
日時／十月十七日（土）午後二時～三時半
書道体験ワークショップ定員／十八名様
書道体験 参加費一三〇〇円
（書道用具一式貸出・色紙込み）
会場／当館ミートイングループ

〈書道体験ワークショップお申込みの方へ〉
※ご自分の書道用具をお持ちの方はご持参ください。書いた色紙を持ち帰る袋をご用意ください。汚れても良い服装でご参加ください。

関連事業のお申込み
事前予約制
tel 0134-34-0035

※観覧券が必要です。お席に限りがございます。



池田 憲亮

1984年 小樽市生まれ
日展会員 石飛博光先生に師事(2003～)
大東文化大学大学院文学研究科書道専攻博士課程前期課程修了(2011)

【公募展】
毎日書道展 毎日賞(2016/2022)
第4回中野北溟記念 北の書みらい賞 奨励賞(2024)
第61回創玄展 準大賞(2025)

【所属団体】
一般財団法人 毎日書道展 会員
公益社団法人 創玄書道会 二科審査会員
北海道書道展 会友
博光書道会 常務理事
小樽市文化祭 書道市展 委員
書遊会 会員

【現在】
湯殿山光明院 副住職
高等学校時間講師（芸術科書道）
課外活動外部指導員（書道部）
道新文化センター小樽 講師
書道研究 臥牛社 主宰

